



# 四日市看護医療大学

四日市看護医療大学学報 No.18

〔発行日〕 令和6年12月20日 〔発行〕 四日市看護医療大学 庶務課

〒512-8045 三重県四日市市萱生町 1200 TEL.059-340-0700 FAX.059-361-1401 <https://www.y-nm.ac.jp/>



## コロナ禍後の社会変化と 本学におけるイノベーション

看護学科長、研究科看護学専攻長、  
教育推進・学生支援センター長

杉崎 一美

2007年、暁学園、四日市市・市立四日市病院との公私協力方式により本学が開学しました。2011年、大学院看護学専攻の開設、更に2020年看護医療学部臨床検査学科、2024年大学院臨床検査学専攻の開設と、開学以来17年が経過しています。

2020年2月「新型コロナウイルス感染症に対する緊急対応策」により、本学においても休講、遠隔授業となり、臨地実習もできず自宅学習が半年程続き、その後は国の感染対策状況を加味しながら、クラスを分離した対面授業、臨地での少人数の実習へと、なんとか教育の質を担保するよう工夫しながら行ってまいりました。2023年5月、2類相当から5類感染症に移行に従い、授業では対面が通常となり、医療現場では感染対策をとりながら対象者の方々への直接的な関わりが可能となりました。8月にはカリフォルニア州立大学ロングビーチ校での海外研修も再開しました。

学生にとってコロナ禍での経験が感染防御行動に繋がり、また急速なデジタル化が進ん

だ結果、学生たちはPCやipadを持ち込み、メール配信・Web検索・レポート作成を活発に行っています。更にDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進と相まって、電子教科書も採用しました。国試対策としては以前から行われていた定期的な模擬試験の他に、空き時間を利用して自主学修ができるよう看護師国試問題WEBフルプランを導入し国家試験合格率100%をめざして邁進しております。9月から3年生は、机上の学修が試される緊張感の中にも学びある臨地での領域別実習が始まりました。

2040年には日本の人口における高齢者の割合がピークに達する一方、医療従事者が需要に追いつかず、適切な医療を受けられない可能性があるとの指摘があります。専門的知識に基づく看護を提供し、人々の気持ちに愛をもって共感でき、将来に起こりうる問題に自分で考えて行動できる人材を育成するという本学の方針は、地域社会への大きな役割・貢献を担うことになると考えます。

## 令和6年度 入学式

4月2日（火）に令和6年度の入学式を挙行了いたしました。

今年度は看護医療学部 153 名、大学院臨床検査学専攻 6 名が入学いたしました。柴田英治学長からの式辞では「時代に合わせて身につける知識や技術は増えている。大変だがやりがいのある世界、人工知能（AI）にできないことをやって欲しい。」とメッセージが送られました。式典の最後には、看護医療学部・看護医療学研究科それぞれの代表者から入学生宣誓が行われ、決意が述べられました。

また当日は、本学関係者に加え、森四日市市長を始めとした多くの来賓の方にもご参列をいただきましたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。

最後になりますが、教職員一同、新入生の皆様の本学へのご入学を心より歓迎いたします。



## 学友会主催

## 新入生歓迎会

4月5日（金）、学友会主催の新入生歓迎会を開催いたしました。

看護学科では2年生が中心となり、臨床検査学科では2年生に加え先輩と先生も参加しました。1年生の緊張をほぐす穏やかな交流となりました。

クラブ紹介で各クラブから勧誘があった後は、先輩も交えた自己紹介をグループごとに行い、各グループで笑顔が見られました。景品が1人1つ当たるビンゴは最も盛り上がり、1年生の最初の思い出になったと思います。



## 新任教員 からの メッセージ

### 臨床検査学科 教授 森本 誠

令和6年4月に本学臨床検査学科に着任しました。専門は臨床検査管理学、臨床化学・免疫化学、輸血検査学、生殖補助医療技術です。2年生の臨床化学実習を担当しておりますが、学生さんのフットワークの良さに感心する事があります。「鉄は熱いうちに打て」のことわざ通り、若く柔軟な時期にしっかり臨床検査の知識と技術を学んでほしいと思います。臨床現場で長く勤務した経験を基に、良き臨床検査技師、胚培養士になれるよう指導していきますのでどうぞよろしくお願いいたします。

### 看護学科 准教授 大久保 仁司

9年ぶりに本学に戻って参りました。私の研究領域はがん看護で、特に緩和ケアとがん教育に関する研究に取り組んでいます。現在2人に1人ががんに罹患し、3人に1人ががんで亡くなっています。がんを予防し、がんに負けない身体を維持できるようにするためには、医療者のサポートが重要です。患者さんとそのご家族に寄り添い、一緒に健康課題を乗り越えられる看護師を育成したいと考えています。よろしく願いいたします。

### 看護学科 助教 小西 澄代

令和6年4月に着任し、母性看護学・助産学領域を担当しております。本学には、助産師課程があり、現在分娩介助実習中です。少子化が進み、三重県も出生数が減少する厳しい現状の中、出産は妊婦さんにとって大変貴重で不安が大きい体験であるにもかかわらず、学生の実習に快く協力して頂ける事に、学生と共に日々感謝しながら実習を進めております。学生は、生命誕生の神秘を感じつつ、安全で安楽な出産の手助けができる知識や技術の獲得に向け努力しています。母親と、新生児に寄り添うことのできる豊かな人間性を持つ助産師を育成できるよう努力していきたいと考えています。

### 看護学科 助教 鈴木 茉央

令和6年4月に本学に着任し、母性看護学・助産学領域を担当しております。8月より、初めて助産学実習の実習指導をさせていただいております。対象の方に真摯に向き合いその方に見合ったケアについて熟慮する姿に刺激を受けました。実習や講義を通して、医療従事者としての確かな倫理観と豊かな人間性を養い、責任をもち、患者様のお気持ちに寄り添った助産や看護を学べるように、学生さんの主体的に学ぶ力を大切に育みながら支援をしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

### 看護学科 助手 山本 真里

令和6年4月に着任し、主に演習や保健師課程、病院での実習で学生と関わらせていただいております。本学は建学の精神「人間たれ」に基づいた豊かな温かい人間性と高度な知識、技術を兼ね備えた医療職の育成を目指していますが、主体的に学び、自己の考えを持ち、アセスメントを通して深く考えることができる学生が多いと感銘を受けております。学生との演習や実習を通して、私自身も看護の魅力について改めて考え、共に成長し学んでいきたいと考えております。

学友会  
主催

## 親睦運動会

6月8日(土)学友会主催の親睦運動会を開催いたしました。

緊張をほぐすためのアイスブレイクから始まり、豪華賞品を目指して、じゃんけん列車や障害物競走・ドッジボールのチーム対抗戦が行われました。学生たちはすぐに打ち解け、楽しそうに競技を行う姿がみられ大いに盛り上がりました。競技終了後は、運動会の表彰式が行われ、短い時間でしたが、先輩・後輩・同級生との親睦を深められた1日になったと思います。



## クラブ紹介

運動部

看護学科1年 宮原 風花

私たち運動部は、毎週木曜日の放課後に体育館内で活動しています。活動内容は主にバレーボールとバスケットボール、バドミントンで、三つの種目を一週間毎にローテーションで行っています。

スポーツ経験の豊富な人から未経験者まで、幅広い学生が集まり楽しく活動しています。「スポーツを続けたい」「運動不足解消」「友達作り」など、サークルに参加する理由は様々ですが、部員一同協力しながら、明るく競技に取り組んでいます。

生化学  
愛好会

臨床検査学科2年 森本 さくら

生化学愛好会では、医療と切り離せない関係にある「生化学」を主として必要な技術の向上・原理の理解を目的に活動しています。生化学は難しいと思われるかもしれませんが、楽しく学べるよう工夫しながら日々活動しています。実験だけでなく勉強会を開催し、試験に向けてみんなで勉強をしたり、他のサークルと合同で「健康いきいきフェア」という一般の方向けの健康イベントを学生主体で開催したりしました。また大学祭では模擬店を出店するなど、部員が一丸となって活動しています。



## 令和6年度 長江拓子奨学金授与式

6月26日(水)、長江拓子奨学金授与式を行いました。

長江拓子先生は本学で教鞭をとられた後、顧問としてお力添えをいただきました。先生から頂戴した寄付金を基に創設されたこの奨学金制度は、本学の学生がより一層学修意欲を高め、看護専門職業人となる自己の目標を明確にすることにより、人材の育成に資することを目的としています。



学業成績、本学および社会への貢献などから審査し、看護学科2年生1名が本年度の奨学生として選出されました。授与式では、柴田学長から賞状と奨学金が授与され、杉崎看護学科長・教育推進 学生支援センター長と千原学生生活委員長からも称賛のお言葉をいただきました。受賞された奨学生の方には、さらなる活躍を期待します。



# 実習について

## 臨地実習における学生の状況

看護学科実習委員会 実習委員長・教授 三好 陽子

9月初旬より、成人、老年、小児、母性、精神、在宅などの領域別実習が始まりました。6か月間にわたる長期の実習になります。臨床現場で、学生達は講義で学んだ知識や技術を実践に応用し、看護師として必要な能力を養います。実習期間は看護学生生活のなかでも大変な期間ですが、自身の看護に対する思いや考えを見つめ直す貴重な時間です。実習期間で得た経験や知識は、就職活動やその先の看護師のキャリアにつながります。

また、令和5年5月8日より新型コロナウイルス感染症は5類感染症に位置づけられることになりましたが、臨床現場に



においては、感染対策としてマスクの装着が必要とされております。学生、大学、実習施設それぞれが、新型コロナウイルス感染症について正しく理解した上で、適切な感染対策を実施し、臨地実習での学生の学びに支障をきたさないように、各担当教員は日々尽力しております。学生達もマスクを装着し、健康管理に留意しながら元気に頑張っております。

## 新カリキュラムでの臨地実習を終えて

臨床検査学科実習委員会 実習委員長・教授 千原 猛

8月30日、現3年生が新カリキュラムでの初めての臨地実習を無事終了いたしました。新カリキュラムでは臨地実習単位が増加され、実施すべき基本行為について、学生に「必ず実施させる行為」、「必ず見学させる行為」、「実施が望ましい行為」が明確化されました。そのために実習施設も臨地実習指導者を配置して、新カリキュラムに対応していただきました。実習後のレポートの内容より、学内実習では得られない現場での医療を体感し、医療人としての自覚を高め、非常に充実した臨地実習であったことを感じ取ることができました。



本学では臨地実習の充実のため、現場で一つでも多くのことを学修することを目標に1単位あたりの時間数が他校と比べ長いことを特徴としています。そのため、単位を取得するには、その期間中に特別な理由がない限り、日程上、休むことができません。これから臨地実習に臨まれる現1年生2年生の皆さん、臨地実習は休むことができないことを知っておいてください。したがって、普段から体調管理に努め、まずは講義・学内実習を欠席しないように心がけてください。

## 看護学科実習体験記

看護学科1年 西川 花奏

私は基礎看護学実習Iで、病院の役割・機能や患者様中心の看護についてを学び、臨地実習でしか得られない経験をさせて頂きました。

病院・病棟の見学を通して、どの看護技術を行うにも患者様の今の状態を考え、その方にあった看護を提供することの大切さを学びました。このような看護を実現させるためにもチーム医療が深く関わり合い、治療を円滑に進めるにあたり看護師は重要な役割を持つことも学びました。これらを通して確かな技術・知識を患者様の個別性に合わせ、応用していく必要があると感じました。

実習を通して自分の将来像や、課題点を多く見つけることが出来ました。今回得た学びを忘れずに、確かな知識や技術を身につけるためにも日々勉学に励んでいきたいと思えます。

## 臨床検査学科実習体験記

臨床検査学科3年 江藤 愛莉

約3ヶ月間、臨地実習へ行き、学内では学べない貴重な経験ができたと感じています。今まで培ってきた知識や技術を発揮し、自分の成長を感じることができたり、足りない部分に気がつき、新たに知識や技術をインプットしたりする期間でもありました。学内実習では、手技を習得することに一生懸命になっていましたが、臨地実習を通して患者さんの背景にも目を向ける重要さを学びました。また、検査に対する不安を軽減するために1人1人に寄り添った接遇を見て、改めてコミュニケーションの大切さに気がつきました。技師の先生方の働く姿を近くで見て、より一層臨床検査技師を目指したい気持ちが強くなりました。実習で学んだことを活かしていきながら、国家試験の勉強に臨みたいと思えます。

## 臨床検査学科 臨地実習前技能修得到達度評価について

臨床検査技師を取り巻く社会的環境の変化に対応するため、令和4年度入学生より、臨床検査技師の卒前教育内容が改正されました。特に「臨地実習」について大きく改正があり、臨地実習前に行う「技能修得到達度評価」が必修となりました。「技能修得到達度評価」とは、単なる実技や知識の確認試験ではなく、学生が臨地実習に必要な技能・態度を備えることを目的としています。

本学科では、1期生（令和2年度入学生）より、先駆けて本試験を導入しており、学生の質を担保すると共に、学生が自信を持って臨地実習に臨むことができるよう取り組んでいます。また、臨床検査には幅広い分野があるため確認試験項目として、3項目以上を実施することが定められていますが、本学科では10項目以上を実施しています。さらに、外部評価として、三重県臨床検査技師会の先生方に評価に加わっていただいています。この取り組みの結果、臨地実習先での学生の評判もよく、緊張感の中で行う本試験の重要性を感じています。

## 海外研修

### 令和6年度 海外研修を終えて

看護学科 准教授 増田 由美

8月4日から11日までの1週間、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校での研修に臨床検査学科の学生3名が参加しました。午前中は語学研修、午後は現地学生との対話時間が自由参加で設けられました。今年は医療に関する講話や施設見学はなく、ほぼ完全な語学研修となりました。短期間でしたが、学生はドミトリー（寮）で出会う他国の学生とも積極的に交流を行い、限られた時間内で食事や買い物を精一杯楽しみ、異文化に興味深く触れ、元気に日本に戻ることができました。



### 海外研修体験記

臨床検査学科2年 森本 さくら

今年の海外研修では、施設訪問や医療に携わる方のお話を聞く機会がありませんでしたが、少人数だったことでより深く英語を学ぶことができました。私たちが楽しく英語が学べるよう先生方が工夫して授業を行ってくださったり、様々な国々から来られた学生さんと交流を行ったりして、文化の違いや共通点、趣味や近況などの興味深い話だけでなく学生らしい他愛もない話もしました。



この1週間はとても濃く大変充実していました。このような素敵な機会を作ってくださった先生方や関係者の方々、両親には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。この研修で私たちは多くのことを学び、そして経験しました。そんな一生の宝物のような思い出を忘れず、また将来に繋げ人生の糧にしたいです。



# 大学祭

10月26日（土）、単独では2回目となる大学祭を開催しました。初開催の昨年と比べて規模拡大を目指し、「大学祭を盛り上げたい」という目的のもとに、昨年度はなかった模擬店、音楽ライブ、ダンスイベントが、クラブや有志により企画され、開催に至りました。来場者からの評判も上々で、特に3組の大道芸人の皆さんのショーは、幅広い年齢層・国籍の方にお楽しみいただけました。実施した来場者アンケートを元に、来年度もより良い学祭になるように企画していきます。



学生会会長 看護学科2年 鈴木 そら

今年度は新型コロナウイルスによる制限が緩和され、規模を拡大した開催となり、サークルや学生有志の方々にも企画していただいたり、素敵なバルーンアーチを作成していただいたり、大道芸人の方々に来ていただくなど、多くの方に楽しんでもらうことができました。ご来場くださった皆様、ありがとうございました。



学生会副会長 看護学科2年 清水 朝陽

準備や当日の運営で大変なこともありましたが、昨年より多くの方に来場していただけだったので嬉しかったです。恒例のピンゴ大会も沢山景品を用意したので楽しんでいただけたのではないかと思います。運営に携わってくれた皆様、そして、ご来場してくださった皆様ありがとうございました！



## オープンキャンパス

令和6年度オープンキャンパスが、5月19日（日）、6月9日（日）、7月20日（土）、8月10日（土）と4回実施されました。今年度は定員を設けることはせず、学食体験も復活し、終日開催となりました。

全体説明では、柴田学長の挨拶にはじまり、四日市市健康福祉部様からは公私協力方式による本学の特色や支援制度について、続いて入試広報室より大学・学科の紹介や入試説明が行われました。

昼食をはさみ午後からは、両学科それぞれ模擬講義や実習体験が行われ、教員や学生と参

加者の方が楽しく交流をしました。また個別相談・先輩と話そうコーナーでは、入試内容や奨学金のことだけでなく、実際の学生生活などを熱心に質問する参加者で賑わっていました。

参加者からは「先生や先輩がとても丁寧に優しく教えてくれた。」「看護師や臨床検査技師についてより理解を深めることができました。」という声が数多く聞かれました。

オープンキャンパスを通じて本学の魅力を感じていただき、今後の進路や目標を決めるきっかけになればと思います。



## 高大連携について

令和6年度の暁高等学校との高大連携事業は、3年生23名（看護医療コース選択者）が7月5日（金）に来校して大学講座体験を実施しました。看護学科では『健康なからだところ～バイタルサインと元気に役立つ道具箱～』をテーマに生命徴候であるバイタルサインの測定（脈拍・呼吸）を、臨床検査学科では超音波検査、血液像検査などさまざまな臨床検査技師の仕事を経験していただきました。参

加された生徒の皆さんは、大学の教員や在学生の先輩たちに指導を受け、緊張しながらも、楽しそうに学ばれていました。

この高大連携事業では、高校生の方に大学での学びを経験することを通じて、看護医療系の学びを深め、進路選択の幅を広げる機会となることを目的としています。暁高等学校から本学または医療系養成校進学への意識向上につながるよう、今後も高大連携事業を推進して参ります。



## 教育後援会事務局より

### 令和6年度 教育後援会役員会・総会

去る6月1日(土)今年度も無事に役員会を開催することができました。これもひとえに役員様はじめ、会員様のお力添えあってのことと心より御礼申し上げます。今年度は役員として会長含め計13名の方にお引き受けいただきました。これはこれまでで最大の役員数となり、事務局としましても一層身が引き締まる思いであると共に、より広く本学に関心を寄せていただけていることに心強さを感じております。さらに役員様の中でも過半数の7名が新任かつ1年生の父母等様であり、役員会自体も活気づいていくような気がしております。



教育後援会 顧問  
柴田学長が直接  
ご質問にお答えしました。



役員会にて資料に目を通される役員様

また、総会は例年通り書面決議の開催としましたが、両学科合わせ415人の会員様に承認のお声をいただきました。教育後援会は役員様を筆頭に会員様のご協力の上で存続できております。今後とも何卒お力添えの程、よろしくお願い申し上げます。

この場をお借りして改めて、留任含め役員を引き受けていただいた会員様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

### 令和6年度 教育後援会 父母等懇談会

10月5日(土)本学において、父母等懇談会を開催させていただきました。今年度も臨床検査学科は41組、看護学科は59組の方々に参加をいただき、盛況のうちに終えることができました。ご参加いただいた父母等様、並びに会員皆様のご協力に心より感謝申し上げます。全体説明会では、学科長による本学の取組を中心に、また卒業生を招き大学生活や職場の近況などを聴講いただきました。また、その後、各アドバイザー担当教員による個別面談を実施し、ご子息・ご息女の学生生活を知るいい機会となったと思います。個別面談では直接教員が担当しましたので、授業や実習での様子、国試や就職に向けた対策などより具体的にご理解いただけたのではないのでしょうか。今後も本会をより一層充実させられるよう、教職員一同精進いたしますので、ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

教育後援会事務局



## 令和6年度 社会貢献活動

### 公開講座

【担当】高崎 昭彦 教授

6月30日（日）に公開講座を実施しました。

今年度は本学の臨床検査学科の高崎昭彦教授が「肺の生活習慣病（COPD）ってどんな病気？～実践！呼吸体操・血栓予防体操～」をタイトルに講演を行いました。呼吸体操もふまえた講義は好評で、参加者からは「講義だけではなく、呼吸法や体操もできて大変楽しかった。」「これから実行して健康になる様に頑張りたい」等の感想を頂戴しました。今後も皆様の健康向上の一助となるような講座を企画していきたいと考えております。



### みえアカデミックセミナー

【担当】後藤 由紀 教授

「みえアカデミックセミナー」は、三重県総合文化センターを会場に、三重県にあるすべての大学・短期大学・高等専門学校・高等専門機関全15校が担当する公開セミナーです。



今年度は8月28日（水）に「怒り・イライラへの対処方法」と題し、看護学科 後藤教授が講師を務めました。講演の中で認知行動学的アプローチである「アンガーマネジメント」の手法について紹介がありました。怒りに対処するための3つのコントロールの仕方、出来事を点数化する「アンガーログ」をグループワークでディスカッションを行いました。今後も地域に開かれた大学として地域貢献活動を継続してまいります。

### 地域健康教室

【担当】三好 陽子 教授

10月26日（土）本学を会場に地域健康教室を実施しました。

今年度のテーマは「加齢による下肢筋力の低下を知って、歩行に必要な筋力をUPしよう！」です。講義では、年齢と共に低下する運動器機能やバランス力について説明されました。下肢



筋力維持のために、音楽に合わせて気軽にできる運動が紹介されました。参加者からは「歩くのに大切な筋力トレーニングを教えてください、すぐ実行したいと思います。」「実際に体を動かす時間も有り、とても楽しく拝聴させていただきました。」とのご感想を頂戴しました。健康を維持するための運動への関心をより一層高める機会になったと思われれます。



## 健康いきいきフェア開催 //

10月19日（土）健康フェスティバル2024「健康いきいきフェア」をトナリエ四日市にて開催いたしました。今回で3年目の開催となります。

本イベントは、地域の皆様の健康への関心を高めることを目的としてスタートし、血管年齢チェックや血圧測定、顕微鏡体験、一時救命処置の体験など様々なブースを用意いたしました。このイベントの企画・運営は学生主体で行われており、日々の学修の成果を発揮する絶好の機会となったかと思えます。3年目に入り、開催までの準備や来場者への対応など、先輩から後輩たちに着実に受け継がれているように感じました。今年度は、看護学科と臨床検査学科の学生が合同で行い、両学科の垣根を超えた活動ができたと思えます。また、新企画としてスタンプラリーを実施し、景品に学生たちが折り紙で折った作品を用意しました。来場者からは、『素敵な景品ですね』と言われ、笑顔で受け取っていただけました。前年に引き続いての来場者も見え、着実に地域に根付きつつあると感じた1日でした。



## 国家試験対策

### 看護学科

看護学科では、学生一人一人にファイル「国家試験の手引き」を提供しています。学年進行に合わせて、入学時から全体像をイメージし、各自で学習計画を立案・実施できるよう内容を工夫してあります。各学年国家試験ガイダンスや対策講座、模擬試験を実施し、結果等共有し看護学科教員全員で学生を支援しています。令和6年度は新たに、webを活用しての個人の進捗を見守りながら助言・相談に応じ、全員合格・夢の実現を応援しています。

### 臨床検査学科

臨床検査学科では2期生が「第71回臨床検査技師国家試験」に向け、本格的な受験勉強に日々取り組んでいます。国家試験対策として学科では3つの対策を進めています。1「模擬試験」の実施。4回の学内模擬試験と8回の全国模擬試験を行っています。2「特別演習」の実施。前学期から12月末まで、必修講義がない時間（205コマ）を活用し、総まとめの講義を実施しています。3「面談」の実施。アドバイザー及びキャリア支援が学生の状況を把握するため面談を行っています。



## 就職・進路状況 四日市看護医療大学 2023年度(2024年3月)卒業生

### 1. 就職・進路状況

看護学科	就職	希望者	111名
		決定者	104名
		うち四日市市内の医療機関等	43名

臨床検査学科	就職	希望者	23名
		決定者	15名

\*進学希望・決定者 2名(四日市看護医療大学大学院、新潟大学大学院)

### 2. 就職先

都道府県	医療機関等	
看護学科	三重県	市立四日市病院、三重県立総合医療センター、四日市羽津医療センター、みたき総合病院、四日市消化器病センター、小山田記念温泉病院、桑名市総合医療センター、三重大学医学部附属病院、鈴鹿回生病院、三重県立こころの医療センター、松阪市民病院、三重中央医療センター、津市、ヨナ八丘の上病院、伊勢赤十字病院、四日市市、JA 三重厚生連 三重北医療センター菟野厚生病院、JA 三重厚生連 松阪中央総合病院、JA 三重厚生連 鈴鹿中央総合病院
	愛知県	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院、名古屋市立大学病院、名古屋掖済会病院、藤田医科大学病院、藤田医科大学岡崎医療センター、藤田医科大学ばんたね病院、JA 愛知厚生連海南病院、津島市民病院、一宮市立市民病院、一宮西病院、愛知医科大学病院、半田市立半田病院
	岐阜県	大垣市民病院、鷺見病院
	静岡県	聖隷三方原病院
	兵庫県	兵庫県立淡路医療センター
	東京都	東京医科大学病院、東京医科大学八王子医療センター
	神奈川県	横須賀共済病院

都道府県	医療機関等	
臨床検査学科	三重県	みたき総合病院、桑名市総合医療センター、伊勢赤十字病院
	愛知県	愛知医科大学病院、大同病院、刈谷豊田総合病院、常滑市民病院、JA 愛知厚生連稲沢厚生病院、愛知健康増進財団、あいち健康クリニック、(株)ナゴヤ医学学術センター
	岐阜県	(株)メディック
	富山県	富山県立中央病院
	埼玉県	(株)BML

### 3. 全体状況

4月から採用試験等が開始され、学生が主体的に就職活動できるよう、キャリア支援委員会・アドバイザー教員を中心に全学的な体制でサポートを継続しています。

また、今年度も国試対策を強化し、合格率の向上に努めてまいります。

## ……… 大学院生からのメッセージ ……

臨床検査学専攻 1年 加藤 翔

私は本学大学院に胚培養ないしは生殖補助医療の発展を研究目的に進学しました。教育目的としては、先進的な生殖医療技術の理解と応用を通じて、臨床現場での実践力を養うことです。具体的には、胚培養の基本技術や生理学的背景、倫理的な課題について学ぶことで、専門的な知識を深め、実践的スキルを身につけることを目指し、日々学習、研究を行っています。

最終的には、高い専門性を持ち、変化する医療環境に適應できる柔軟な思考を備えた人材として成長し、胚培養に関する新たな知識を生み出し、社会に貢献することを目指しています。

臨床検査学専攻 1年 瀨瀬 師子

医学はゴールのない探究の世界。病院勤務をしながら大学院への進学を決めました。臨床検査技師という仕事は、診断するという立場から治療方針を決める大切な職種です。病院ではさまざまな症例に遭遇しますが、他職種と連携して一人ひとりの患者と向き合います。学会活動に加え、大学院での研究活動を行うことは大変ですが、そこで出会う方々が私をさらに育ててくれます。臨床検査の発展に貢献する力を身につけることが目標です。



## 防災・減災の取り組み

災害・感染対策チーム長 多次淳一郎

本学では2022年度より災害対策チーム（2024年度から災害・感染対策チーム）が中心となり防災・減災対策に取り組んでいます。今年度の主な取り組みをご紹介します。

### 1. 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）発令時の安否確認

2024年8月9日にはじめて南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発令されました。これを受け、危機管理委員会からWebアンケートツールを用いた安否確認を開始時、24時間後、48時間後、72時間後の4回実施しました。

### 2. 防災訓練

今年度は教職員で構成する災害対策本部とその指揮下に活動する4つの班（通報連絡・避難誘導・安全防护・救護）のシミュレーション訓練を実施しました。

### 3. 学生への備蓄用品の配布

教育後援会のご支援をいただき、発災3日間の安全・健康を守るための飲料・食事等の防災グッズを全学生に配布しました。学生は在学中、大学内のロッカーに保管します。

災害はいつ起こるかわかりません。今後も訓練結果の分析・評価を行って改善を繰り返しながら、実効性ある防災・減災の体制づくりを進めていきたいと思えます。



## 無人コンビニMaxマートのオープンについて

令和7年1月より、学内のコンビニエンスストアが現在の学生食堂からB館1階に移転し、新たにマックスバリュ東海株式会社が運営する無人コンビニ「Maxマート」となることが決定いたしました。

今回の移転を機に、これまで学生の皆様から要望の多かった営業時間の延長、キャッシュレス決済への対応、商品数の充実をはかります。

特に商品数の充実に関しては、冷凍食品を展開するなど学生食堂の営業時間外での食事問題を解決する一助となることができると考えております。

また、セキュリティ面では、店舗外からモニターで中の様子を確認することができる防犯カメラや、入室時に学内者限定で発行される認証キーが必要なシステムを導入するなど利用者が無人でも安心して利用できるように様々な防犯対策を講じます。

※営業時間は平日の8時から17時を予定しています。



## 本年度学位記授与式

令和7年 3月10日(月) 10時～

都ホテル四日市において挙行する予定です。